

展示の主旨

中居鑄物の起源は中世以前、古代にまで遡るのでしょうか。平安末期の「石納釜」、「能登釜」、「能登鼎」、鎌倉時代の「能登の国の釜」など文献に現れますが、その産地は明かではありません。おそらく海を通路として、あるいは陸づたいに鑄物師が往来するなかで鑄物技術が伝播し育まれたのでしょう。

室町時代の「能登利鉄多く大器を鑄る」の大器は、近世の塩釜のような伝統的技術の継承とされ、その生産は、波静かな鑄物原材料

のある中居浦と知られています。

長い歴史の変遷の中で、鑄物の生産と消耗が繰り返され廃絶しました。以後、鑄物業から左官の集落へと生活環境も変わりました。現在、祖先の業績を忘れ去らないためにも、鑄物資料を保存継承するのが鑄物館の目的です。

寄託された貴重な鑄物や古文書から、中居鑄物史の再確認を主眼に展示紹介いたします。

鬼面



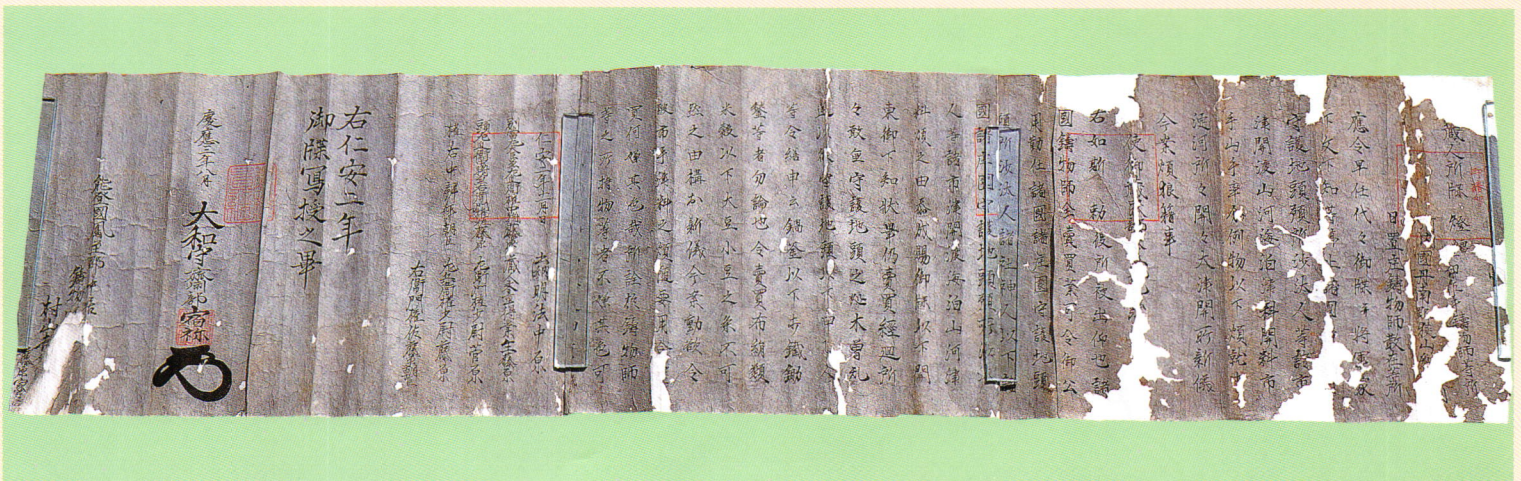
(日吉神社所蔵)

釣燈籠



(米田孫八氏所蔵)

蔵人所牒



(村山嘉吉郎氏所蔵)